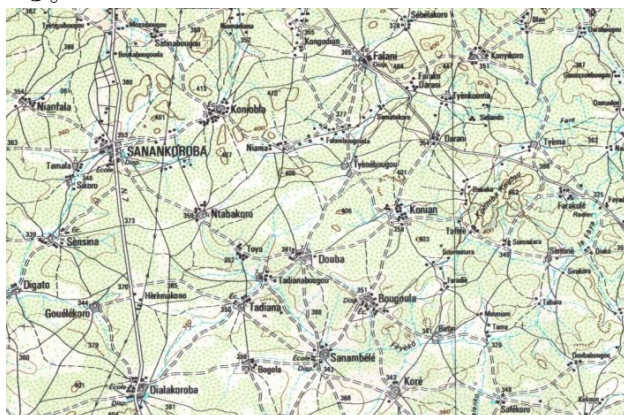


## マリの道路

坂場 光雄

マリには20万分の一の地形図がある。バマコ周辺やファナ地域を見ると、比較的平坦な地形が広がり、集落を表す小さな黒点が分散している。

村の立地は基本的に農業のやりやすい場所を選んで形成されており、周辺よりやや低くなって、雨季に水が利用できる場所が多いようだ。土の層が厚めである。ここには乾性の樹林が形成されていたようで、そこを切り開いて、農地としている。農地にはシアバターノキやネレなどの有用樹が残されて、実が利用されている。農業は天水利用であり、6月～10月の降水で穀類のソルガムやミレット、ワタの栽培などが行われている。



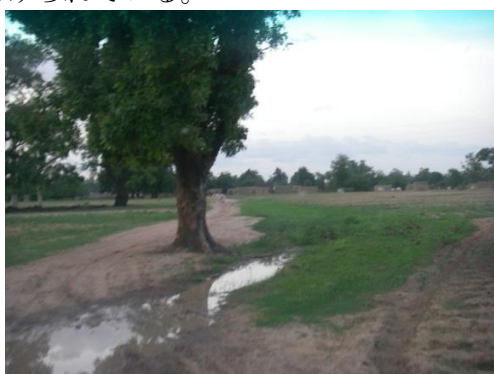
地図の表記（バマコ南の村と道路）



畑の中のシアバターノキ

### ①村の道

地図の各黒点から、隣の黒点を結ぶ実線がそれぞれ四方八方に出ており、ネットワークを形成している。この実線の道は歩行道路から始まって、ロバ車が通れるほどの規模である。小型の自動車は通れるが、季節によっては泥道になったり、川が形成されて通行できなくなったりすることもある。泥道で抜け出せない時は、村人に助けられている。



村の道（2018年7月、ヨソフエ）



農道でスタック（2018年7月、シナレソグエ）

## ②幹線道路

地図の2本線は幹線道路の表記である。大きな都市を結んでおり、周辺国にも続いている。大型のトラックやバスの交通量が多い。

バマコからファナを経てセグー方面に至る道路は、片側1車線の道路が数年前に改修されて、片側2車線の下り線の道路になった。上下線4車線の計画であるが、その後、下り線の工事は進んでいない。

バマコ北の幹線道路は、セネガル方面からの物資を運搬する重要な連絡道である。路面の管理が悪く、穴だらけになっていた。特にカチの街から検問所あたりは特にデコボコ状態がひどくなっていた。穴を避けようとするためか、大型車の交通事故も多発し、道路料金を徴収する料金所では、通行料金を納めない人が続出していた。2018年秋に道路の補修整備を進めない行政に対し、怒った住民が道路を封鎖する事態が発生して、私たちの活動にも影響した。



幹線道路 (2018.6 ベンケブグー)



幹線道路の料金所 (2018.7 カチ)

## ③主要道

地図の2本の破線は大型車の交通が出来る道路である。赤色土を固めただけで、ほとんどが未舗装である。この道は大きな村を結び、農村の生産物を運搬する目的で大型車が通れるように作られてきたようだ。農耕に利用されにくい尾根部を通過することが多い。

この道路は乾季には問題なく利用できるが、雨季には大きな水たまりが出来て、通行しにくくなる。水たまりを避けるため、道路が広がり、周囲の畑に影響が出ることもしばしばである。比較的高い尾根部分を通過するので、ちょっとした排水路を作れば、水たまりは小さくなるのに、なかなか取り組む村や人はいない。現場で排水作業をしていると、ときどき手伝ってくれる若者がいるのはうれしい。



雨季の主要道(2018.7 コビリ道)



道路の排水作業(2018.7 コビリ道)

## 地方分権による土地売買と試験地

榎本肇

「ファナの試験地がバマコの人に買われた」

現在、マリ渡航中の坂場代表から第一報が届きました。

ファナ試験地は、バマコとセグーを結ぶ国道6号線（2ページ②参照）の脇に位置しています。2007年から、サヘルの森は、その土地の使用権の属するニヤマトブグー村の村長の許可を得て、荒廢地回復の技術開発の試験をしてきました。



売却されたアカシア・セガールのアリ塚植林地

マリの土地の所有権は、もともと国に属していて、住民は使用権を与えられ、開墾や耕作などを行ってきました。しかし、地方分権化を進めるうえで、一部の土地の売買をコミューン（数カ村が属する行政単位）に認め、土地売買証明書の発行手数料を財源とできるようになりました。

土地の購入者は、都市住民であることが多く、土地の価格上昇に当て込んだ投機であったり、週末を静かな郊外で過ごす目的で買っています。

ファナ地域の国道沿いは、中国の援助による4車線化の事業が進むのと並行して、ほとんどの土地がこのように売買されました。数年前に試験地の一部が売買されたときに、土地の処分権（売買権）を有するフガニ村の村長に試験地の売買についての可能性を訪ねたところ、当分は売買

するつもりはないと話していました。しかし、残念ながら土地の購入欲の波には逆らえず、手放すことになったようです。



国道沿いの売却地

ひとたび、土地が人の手に渡れば、多くの人がその土地に人が入るのを良しとしません。何らかのトラブルに巻き込まれることを避けたいからです。そのため、せっかく10年近く試験を行ってきた土地で、まだ継続中の試験もありますが、あきらめるしかありません。

幸い、まだ売買されていない試験地もあり、今後はその土地を活用していくとともに、売買の対象とはならない、村に近い土地での試験の可能性を探っていきたいと思えます。

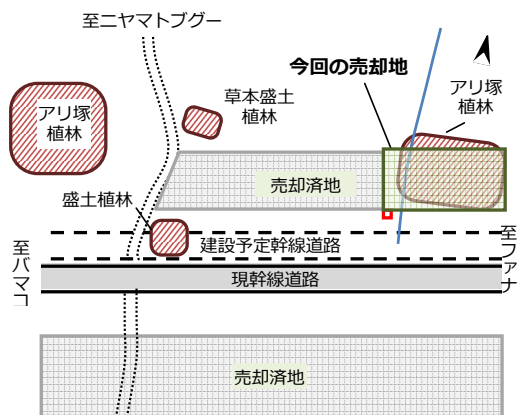


図 売却地とファナ試験地

## 総会の出欠ハガキで届いた **Q&A**

毎年総会出席ハガキにたくさんのメッセージをありがとうございます。スタッフ一同、たいへん励まされています。

今年もいくつかの質問が届きましたのでお答えします。

### 神奈川県 Iさん

**Q** 薪炭の需要が増え里山の樹木が過伐採されているとのこと。薪の代替としてタケ（在来種）の利活用はどのなのでしょう？マダケ、モウソウチクとは違うのでしょうか、資材にも使えると思います。素朴な疑問です。

**A** マリ南部の岩山などにはタケが自生しています。岩山のため、局所的に降雨が集まり、水環境の良いところが発生するからでしょうか？

しかし、自生するタケの総量はあまり多くないようです。現在の薪材にとって代わるほどの量はとれないのではないかと思います。

マリ南部の人々は既にタケを資材として使っています。よく目にするのは、農耕民がタケの割いたものを使う、穀物倉庫の心材です。これを骨組みとして、周りに泥粘土を塗って壁とします。



穀物倉庫の心材に使われるタケ材

マリ中部に行くと、市場の資材置き場にマリ西部の産地から運ばれてきたタケ材が山のように積みまれています。マリ中部に多い湖沼で漁猟を営むボソ族が使う竿として使用されるのです。



漁労民の竿として使われるタケ材

### 奈良県 Sさん

**Q** 識字率はどれくらいですか？  
筆記用具は何を使っていますか？

**A** ユネスコの統計（2011-2016年）によりますと、成人識字率（15歳以上）は**33.32%**（男44.17%、女23.42%）、若者識字率（15-24歳）**48.26%**（男58.43%、女39.11%）です。女性の識字率が男性に比べてまだ低いです。また、多くの村で小学校校舎の建設が行われ（日本のODAも含む）、初等教育を受けられる子供が増えたこともあり、若者識字率が上がっているのでしょう。

筆記用具は、アルファベット用の4重線のノートに青色のボールペンが一般的です。



## 総会が開かれました

(3月24日)

今年は、3/24(日)に東京市ヶ谷の JICA 地球ひろばで、榎本の活動報告会に続き、会員総会を催しました。

総会では、現地活動について、マリ社会が大きく変化していく中で、里山のありべき姿、それに対する私たち活動についても質問が及び、議論されました。

国内活動については、昨年発行したファン特集号に続き、定例活動 10 周年記念誌の計画が発表されるなど、どのようにして国内活動を盛り上げるか議論されました。

決算・予算については、会計担当から報告があり、監査も厳正に行われた旨報告がありました。

今年は、役員改選の年であり、運営委員の杉野二郎さんの辞任に伴い、後任の新運営委員に元現場研修生の工藤義治さんが決まりました。杉野さん、長い間運営委員を務めていただきありがとうございました。

## 新運営委員のご挨拶

工藤 義治

地元の八戸に戻り、早くも17年経ちました。相変わらず森林組合に勤めております。昨年からは職員のトップとなり、すべての事業を取りまとめると同時に、組合の人事管理、損益管理を行い、今年の3月には総会の取りまとめを行いました。

サハラ砂漠での植林活動は遠い存在となりましたが、タイミングがあればいつでも行きたいと思っております。少なくとも子供が社会人になったら、また活動に参加したいと夢見ております。

サヘルの森の活動から外れて20年経ちましたが、まだこの様に関わらせて頂いており、会が存続している事を嬉しく思っております。

会の活動に少しでも役に立ちたいと思っておりますが、非常に忙しく、今のとこ

ろただ存在しているだけで申し訳なく思っております。出来る範囲で支えて行きたいと思っておりますので、皆様方には宜しくお願い申し上げます。



工藤さんは、学生時代から「ちゃへるの会」という学生主体の勉強会を開いて、代々木上原のサヘルの会(当時)の事務所で大学の仲間たちと様々なテーマについて学んでいました。

卒業後は、トンブクトウの現場で4か月ほど研修生として活動に関わっていました。その後地元に戻り、日本の森林を守る仕事を続けられています。

## 会員番号物語 (その14)

### 不思議な縁

柴泰登 (会員番号 1571)

「雨期なのに断水している…」。  
首都でもほとんど舗装されていない道路、圧倒的にモノの少ない街並み、そして夜、シャワーの代わりにバケツ 1 杯の水。2017年の夏、マリを訪問した時のそれが極めつけの衝撃でした。数々の発展途上国を訪問したことがあります、こんなに経済的に貧しい国に出会ったのはマリが初めてでした。街でも雨が降ればぬかるみだらけで身動きが取れなくなり、デコボコした道路のせいで大抵の車は下部が傷んでいる。一方、地方では電気・水道・ガスなどのインフラは一切ない。そんな訳で、経済的苦境は一目瞭然でした。

加えてマリは今、内戦状態でした。私自身は中部のモプティまで行きましたが、現地では「UN」と書かれた車があちらこちらで走り、泊まったホテルは夜、セキュリティシステムが警備していました。そんな緊迫した状況でした。

しかし。

マリは「若い国」でした。街中にはたくさんの子供たちが走り回り、人々は苦しい生活の中でも陽気に希望を語っていました。例えば、私のガイドをしてくれたイブラヒムは政情不安のせいで仕事の方は閑古鳥なのですが、「ダメだったらコックをやるさ。運転も上手いんだぜ。だから日本で働かせてくれよ」と何度も言っていました。異常な高齢化社会に喘ぎ、若者が希望を語れなくなっている日本とは異なった「明るさ」がありました。

そして、この旅で私は「国際協力のあり方」を深く考えさせられました。イブラヒムとの最後の晩、「妻子ある立派な大人」

である彼が跪いて「助けてくれ」と言ってきました。そのとき彼は最初に「自分を」と言い、すぐさま「家族を」と言い、さらに「ドゴン族を」と言いました。正直、最初の言葉だけだったら私も心が動かなかったかもしれません。でも、マリの人々の絆の深さを見せつけられた時、どうにか関わりたいと思いました。



そんな中で出会ったのが「サヘルの森」でした。

私の突然の訪問にも坂場さんや榎本さんなどを始めとするスタッフの方々には真摯に話を聞いてくださりました。「国際協力は知ることから始まる」という言葉を NGO 職員の方から聞いたことがあったのですが、サヘルの森を通じてマリのことを知り、生業としている教職の現場で生徒たちに伝えていきたいと考える様になりました。

こうして私は「サヘルの森」に入会しました。残念なことにイブラヒムとの連絡は途絶えてしまったのですが、彼が繋いでくれた縁を大切に、私は「サヘルの森」での活動を続けていきたいと考えています。

……会員番号は整理のための数字ではない。会員番号にはひとつずつのドラマと想いがある。今は欠番の人の思いも積み込んで、会へ前に進んでいきます。(サヘルの森)

## 国内活動(1月～6月)

### <報告会>

- ・ 3/24 榎本肇 現地活動報告会  
「村人が行うアフリカの里山再生実践  
のその先—いかに裾野を広げるか」  
(JICA 地球ひろば)

### <お話し会@奈良支部>

- ・ 4/17 島岡自宅にてお話し会開催

### <学校との関係>

- ・ 2/7 江戸川区立小岩第一中学校  
牛乳パック回収
- ・ 2/8 横浜市立浦島丘中学校  
牛乳パック回収  
(アルミ缶回収金の寄付も受ける)
- ・ 4/17 横浜市立浦島丘中学校  
資源回収 金委託式 (榎本、原)

### ■横浜市立浦島丘中学校資源回収委託式

今年は TICAD (アフリカ開発会議) が横浜で開催されることもあり、一校一国の取り組みで浦島丘中学校とマリ大使館の交流も行われています。資源回収式にはカマラ・マリエトゥ・ジャラ臨時代理大使も出席しました。昨年は生徒会役員たちの大使館訪問もあったそうで、大使館との交流の活発化により資源回収のモチベーションが上がることを期待します。

生徒会のプレゼンテーションも素晴らしく、牛乳パックの回収がどのように環境に影響するのか、木が何本守られるのかということも伝えていました。



### <定例活動>

- ・ 1/19 多摩川七福神と多摩川緑地
- ・ 2/16 多摩丘陵の里山をたどる
- ・ 3/16 柏の宮公園と神田川遊歩道
- ・ 4/20 根川緑道と立川公園を歩く
- ・ 5/18 明治薬科大の薬草園と金山調整池
- ・ 6/15 鳥越神社と世界のカバン博物館

### <イベント>

### ■みどりとふれあうフェスティバル

今年は5/11, 12の2日間、気持ちの良い新緑の中での開催となりました。今回は横浜を中心に活動されている Zakka african fabric nakayo の辻本さん(過去にルワンダ在住)のご厚意により、アフリカ布で作られた素敵な日傘やバック、ポーチなどの小物の委託販売をしました。過去にサヘルスタッフがマリで仕入れた布を使用した日傘もありました。商品を見に立ち寄った方にアフリカの話や現場の話をする機会もあり、きっかけ作りにとっても良かったと思います。定番のエプロンも人気があり、他ブースで早速買って下さっている方を見て嬉しくなりました。

バオバブと一緒に展示していたシアナッツ(シアバター)にも注目が集まりました。「大きい甘栗」と呼ぶ人もいました。来場者からシアバターの販売希望もあったので、来年はシアバターの販売やマリの在来種・有用樹のことがよくわかる展示を考えたいと思っています。(原)

## 定例活動(7～12月)

天候等の事情により中止となる場合があります。ご参加希望の方は事前に事務局までお知らせ下さい。

### ●7月20日(土) 10:30 集合

肥後細川庭園と雑司が谷

集合場所: JR 中央線・飯田橋駅東口改札

### ●8月の定例活動はお休み

### ●9月21日(土) 10:30 集合

古い水運水路と地下鉄博物館

集合場所: JR 京葉線・葛西臨海公園駅改札

### ●10月19日(土) 10:30 集合

目黒天空庭園と西郷山

集合場所: 田園都市線・池尻大橋駅改札

### ●11月16日(土) 10:00 集合

サヘルキャンプ ※詳細裏面

集合場所: 相鉄線・瀬谷駅改札

### ●12月21日(土) 10:30 集合

小宮公園の雑木林を歩く

集合場所: JR 中央線・八王子駅改札

## 坂場代表帰国報告会

現在マリで活動中の坂場代表の帰国報告会を行います。現場で見たこと、感じたことを臨場感たっぷりの写真スライドと共にご報告いたします。是非ご参加ください。

日時：2019年9月14日（土）  
14：00～16：00（開場13：30）  
場所：地球環境パートナーシッププラザ  
GEOC（国連大学の右ウィング1階）

参加費：500円（資料代として）  
定員：30名（予約優先）  
アクセス：

- 表参道駅（東京メトロ：銀座線・千代田線・半蔵門線）徒歩約5分  
B2出口を出て、そのまま青山通りを直進して下さい。右側に国連大学が見えてきます。
- 渋谷駅（JR・東急・京王井の頭線・東京メトロ）徒歩約10分  
宮益坂方面に出て、宮益坂を登ります。金王坂上交差点を直進、こどもの城のとなりが国連大学です。

## サヘルキャンプ

会員交流、自然観察、技術研修等を目的として実施しています。

薪で煮炊きするマリ料理と竹林伐採体験、たき火、竹細工などで楽しみ学びます。その他、自然を利用した暮らしを感じるができるアクティビティを用意します。ガスや電気を使わない暮らしを体験してみましょう。

お子様連れのご参加、会員でない方のご参加も歓迎します。

期日：2019年11月16日（土）  
場所：中屋敷作業場（横浜市瀬谷区）  
集合：相鉄線「瀬谷」駅改札10：00

持ち物：帽子、飲用水、軍手、タオル等  
申し込み締切：2019年11月13日（水）  
参加費：1,500円＋バス代実費  
（未就学児：無料、小学生：500円）

※参加費には昼食代や保険料を含む  
※自家用車で会場に直接来ること可能  
（要相談）

## 七夕募金のお願い

短冊にマリの平和を願って、毎年恒例の七夕募金への御協力をお願いします。  
同封の振り込み用紙をご利用下さい。

## 苗木募金で里山再生

苗木募金は一口500円から受け付けています。500円で、アフリカでは2本の苗木を村人に届けることができます（スタッフの派遣費用も含める）。

募金の際は「苗木募金」と明記下さい。



## 会費納入にご協力ください

NPO 法人『サヘルの森』はサハラ砂漠の南縁サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には機関誌『サヘル』が届きます。お申し込みは、郵便振替で下記の口座に会費をお振込みください。

- ・一般会員 年 5,000円
- ・維持会員 年 20,000円

### 特定非営利活動法人 サヘルの森

住所：〒194-0013  
東京都町田市原町田 1-2-3-403  
TEL:042-721-1601（留守電対応）  
FAX:042-721-1704  
郵便振替口座:00170-6-115054

HP:<http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>  
BLOG:<http://sahelnomor.exblog.jp/>  
E-mail:[sahel-no-mori@jca.apc.org](mailto:sahel-no-mori@jca.apc.org)

\*\*\*\*\*  
機関誌『サヘル』No.104 2019年7月3日発行  
発行人:坂場光雄 / 編集:榎本肇  
\*\*\*\*\*